

第二種販売 講習テキスト 第 4 次改訂版  
【正誤表】

次のように誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。  
訂正箇所は、下線で示しました。訂正のうえ、ご使用ください。

訂正箇所	正	誤
P.21 3～6 行目	<p>このような燃焼の関係を示す式を<b>燃焼方程式</b>（熱化学方程式）といい、炭化水素に十分な空気（酸素）を供給して燃焼させると二酸化炭素（炭酸ガス、CO<sub>2</sub>）、水（H<sub>2</sub>O）を生成する。このような状況での燃焼を<b>完全燃焼</b>という。これに対して、燃焼するとき、空気（酸素）が不足したり、またはその他の条件で完全に二酸化炭素と水にならない場合が生ずる。この状態を<b>不完全燃焼</b>という。</p> <p style="text-align: center;">（下線部をゴシック体に）</p>	<p>このような燃焼の関係を示す式を<b>燃焼方程式</b>（熱化学方程式）といい、炭化水素に十分な空気（酸素）を供給して燃焼させると二酸化炭素（炭酸ガス、CO<sub>2</sub>）、水（H<sub>2</sub>O）を生成する。このような状況での燃焼を<b>完全燃焼</b>という。これに対して、燃焼するとき、空気（酸素）が不足したり、またはその他の条件で完全に二酸化炭素と水にならない場合が生ずる。この状態を<b>不完全燃焼</b>という。</p>
P.25 5 行目	溶接容器、低温容器、 <u>超</u> 低温容器	溶接容器、低温容器、 <u>極</u> 低温容器
P.33 図 II.6	<p>※この容器バルブが装置されるべき容器の種類（LP ガス）</p> <p>※※附属品検査に合格した年月日</p> <p style="text-align: center;">（図中に追記）</p>	
P.47 図 III.8	（容量が 30 kg/h <u>超</u> など）	（容量が 30 kg/h <u>類</u> など）
P.50 本文 下から 2 行目	(2) 取引または証明用のガスメーターの使用最大 <b>流量</b> による区分	(2) 取引または証明用のガスメーターの使用最大 <b>流用</b> による <b>流量</b> による区分
P.51 4 行目 （表上段 右側）	$Q_{\max}/Q_t$	$Q_{\min}/Q_t$
P.57 表 IV.5	<p>○：機能あり</p> <p>△：付加機能あり</p> <p style="text-align: center;">（表中に記号説明を追記）</p>	

訂正箇所	正	誤
P.61 下から 8 行目	② 調整圧力異常警告機能	② 調整器圧力異常警告機能
P.62 表IV.9	電池電圧低下遮断 遮断 <u>A</u> ガス止 (A の位置を変更)	電池電圧低下遮断 遮断 <u>A</u> ガス止
P.63 下から 5 行目	遮断弁の開操作は <u>随時</u> 可能である。	遮断弁の開操作 <u>随時</u> 可能である。
P.155 下から 9,13 行目	温度制御機能付きこんろ	温度制御付きこんろ
P.161 表VII.13 BF-D 式の 区分内容	<u>共</u> 用給排気筒	<u>供</u> 用給排気筒
P.171 図のタイトル	図VII. <u>52</u> ふろがまの種類例	図VII. <u>44</u> ふろがまの種類例
P.172 図のタイトル	図VII. <u>53</u> 瞬間湯沸器の種類例	図VII. <u>45</u> 瞬間湯沸器の種類例
P.236 表XI.3 LP ガスの 貯蔵能力	3000kg以上 10000kg <u>未</u> 満	3000kg以上 10000kg満
<p>本テキスト中の「立消え」という表記を、「立ち消え」に改める。 (該当箇所)</p> <p>P. 114 : 下から 2 行目 、 P. 147 : 表VII. 10 中 立ち消え安全装置の目的および概要  P. 147 : 下から 8 行目 、 P. 148 : 図VII. 10 中 、 P. 148 : 図VII. 10 タイトル  P. 148 : 図VII. 11 タイトル 、 P. 149 : 15, 19 行目 、 P. 149 : 下から 5 行目  P. 150 : 3 行目 、 P. 152 : 下から 4, 13 行目 、 P. 154 : 7 行目 、 P. 156 : 13, 14 行目  P. 230 : 3 行目</p>		